

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月6日
函館市立港中学校

1 本年度の重点教育目標

高い志を持ち、（自ら課題を発見し、高いレベルで主体的・協動的に探究し、表現できる生徒）
自ら考え、（広い視野を持ち、お互いを認め合いながらよりよい社会を築こうとする生徒）
自らを律し夢に挑む逞しい生徒（高い規範意識を持ち、心身の調和を図りながら、粘り強く目標に向け挑戦し続ける生徒）

2 本年度の取組の重点

- ・高い思考力（授業改善、個別最適な学び、特別支援教育、ICTの適切な活用、キャリア教育、幼小中大連携）
- ・深い思いやり（自主的・主体的・創造的な生徒会活動いじめの防止、不登校生徒支援、コミュニティ・スクールの充実）
- ・耐え忍ぶ力（心と命を守る教育の充実、自律した学習者の充実（PDCAサイクルの自律的運用））

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 高い思考力	授業改善 個別最適な学び ICTの適切な活用	b	個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指し、自律的に学習を進める力の育成のためのICTの活用や授業改善および外部講師を招聘した校内研修を実施した。今後、効果的な取組をさらに進める。	A	A	・ICTの活用は大切である。一方で道具がないと何もできない青年が大学では増えていて心配である。
	特別支援教育 キャリア教育 幼小中大連携	b	校内外において生徒の健全な成長に向けた教育的組織（校外生活委員会等）による連携を通じ、今後はさらに体系的な整備を進める。	A	A	・地域の大学としては何もできていないので恐縮である。
② 深い思いやり	自主的・主体的・創造的な 生徒会活動 いじめの防止 不登校生徒支援	a	校内では、生徒会が中心となり、自主的・主体的また創造的な力を生徒に身につけさせるための様々な教育活動を引き続き実施する。また、いじめ防止・不登校支援についても学級担任、サポートルーム担当教諭等と連携を密にし、取組を進める。【R6 不登校児童生徒に対する支援推進事業指定校】	A	A	・今年度始まった不登校生徒支援事業を、支援を必要としている生徒にさらに行き届くよう、来年度に向け、引き続き取組を進めてほしい。 ・校内には常に目新しい取組が掲示されており、子どもたちの考えを深める機会となっている。 ・不登校対策の取組を知ることができ、大学でも大変参考になった。
	コミュニティ・スクールの充実	b	これまで以上に連携を密にし、地域人材・地域の教育的素材を生かしながらCS活動を充実させる。またCSとPTAの有機的な連携がさらになされる様、地域及び社会の要請と学校教育が合致できるよう対話を深める。	A	A	・豊富な地域の人材や企業とのつながりを広げる場も必要である。 ・学校の「育てたい姿」と地域の「育てほしい姿」が大切であり、最終的には「地域のために！」という思いを持てることが地域組織の原点だと考える。 ・地域にある大学としても協力し、今後取組を進めていきたい。
③ 耐え忍ぶ力	心と命を守る教育の充実 自律した学習者の充実 （PDCAサイクルの自律的運用）	b	CSを軸に地域と学校の「子供の育てたい姿」に関するイメージを一にしながら、さらに地域全体の教育力を高めるために学校との連携を深める。地域の教育力を活用し、生徒の健全な人格形成を目指し、生涯にわたって学び続ける自律した学習者の育成を目指す。	A	A	・学校HPが毎日更新されており、どの立場の者が見ても学校の様子がつぶさに把握できる内容となっている。更新作業の労苦には頭が下がり保護者にとっては本当にありがたいことだと感じる。 ・年に何回か先生方とお会いし情報を共有したり、児童館での子ども達のまた違う一面を見ていただけたりはのはよかった。 ・学校HPでも日常の様子が保護者や地域の方々にはわかりやすく伝えられており、良いと思う。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。